

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372400069		
法人名	社会福祉法人 マキバの会		
事業所名	グループ・ホーム 杜の家 自遊舎		
所在地	岩手県和賀郡西和賀町沢内字沢4地割98番地3		
自己評価作成日	平成23年9月13日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372400069&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財) 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「他者から必要とされることの喜び」を感じながら日常生活を送っていただくように実践している。開所当初からターミナルケアに取り組んでおり、その実績を生かし更なる工夫をし、本人・家族にとっての幸せとは何か追求していくように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

体が動くうちは生活の中で何らかの役割を果たしてきた利用者が、様々な理由で自宅で暮らすことが出来なくなった時、その延長上に「杜の家自遊舎」での生活がある。病気になることも 終わりの時を迎えることも自然なものと受け止められ、自然に看取りが行われている。脳疾患で寝たきりの状態となった利用者も戸惑うことなく事業所で受け入れ、食事状態や身体の状態も徐々に良い状態に向かうなど、手厚いケアが行われている。開所以来10年余り経ち、利用者の高齢化が進んでいるが、職員は利用者が自分の役割を果たしつつ、安心してゆったりと暮らすことを支援している。利用者の経済面への配慮から、家賃の徴収は行われておらず、事業所の地道な経営努力が行われていることは特筆に値する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	終末期どう過ごすか、支援していけるかを念頭に入れ、それに伴いどう生きるか基本に据えて、話し合いを実践につなげていく努力をしている。	「体が動くうちは何かしらの役割を担い、ターミナルを迎えた時は行きとどいた介護により安心して人生を全うしていただくこと」を理念としその実現に努めている。多くの看取りが当たり前のこととして自然に行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者全員は地域の老人クラブの一員として受け入れられている。	自治会に加入し、回覧板を届けたりしている。近くの小学校は今年の春に閉校となり、寂しくなっている。保育園のお誕生会や餅つきなどには数名参加している。地域の婦人会の方が雑巾や惣菜を差し入れてくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉大会などへの協力で、プレゼン等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活発な意見が交わされ、情報の透明化により、地域の理解者が増え、積極的な意見を生かすことができている。	昨年の取り組み課題の1つとして「運営推進委員に利用者の様子を知ってもらう」ことを挙げ実践してきた。利用者とお茶のみ会や施設内での宝探しや、パン食い競争などのゲームを共に行うことで、利用者についての理解を深めてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、ケア会議などの席で意見交換などを行い、機会ある毎に職員に訪問を願っている。	スプリンクラー設置の件や、家族との関わりについて町に相談して助言を頂いている。月1回のケア会議にも出席して情報交換をしたり、町の職員が認定調査等に来所したりと連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は施錠をしておらず、車椅子は移動の手段として使用している。また、長く車椅子に座ることを避け、移動したい場所を選んでもらい、移乗支援をしている。	車椅子の利用者が3名おり、「ずっと車いすに座ることはどういうことなのか」を実際に職員が体験し、検討を行っている。他にも、一緒に歩く場合の職員の立ち位置はどかが良いのかを体験しながら話し合うなど工夫をしながら意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスなどに敏感になるよう心掛け、休日は連休になるようシフトを決めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深めている、また、必要と思われるケースについては、親戚と話し合いをもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時または改定時に説明を行っている。また、必要と思われる家族には、再度説明の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の負担にならない程度のアンケート調査等を実施している。	全員の家族が運営推進会議のメンバーになっており、その場で意見を出してもらったり、来訪時に話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を取り入れて、施設内改装や職務体制などの改善をしている。	スタッフ会議において、その都度気付いたことや交換研修での気付きを出し、検討を行っている。利用者の食事介助に合わせて職員の勤務シフトを変更したり、風呂やトイレに手すりをつけたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格、キャリアとやる気が給与に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個性や力量に合わせた研修を選択して研修するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換、交換研修の機会がある。感想などを文章化して、共有している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く大切な時期であり、言葉にならない要求も見逃さないような努力をする。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に添うため、必要なことを実行している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全体像を見ながら、ケースの持つ、一番のニーズにまずは向き合うことにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができること(役割)を見つけてあげることが職員の大切な仕事だと考えて、実践している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって、家族がいかに大切な存在であるかを伝える努力をいつもしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、兄弟の家、友達の家など必要に応じて連れて行く。また、地域のお祭り、行事、友達が訪ねて来た時も大切な時間を支援する。	家族から 利用者のこだわりのものを聞き取り理解に努めている。墓参りやお祭りなど家族が高齢で移動手段がなくて連れていけない時など相談して支援している。理容は職員が行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聴こえの悪い人の隣に座って通訳をしたり、閉じこもりがちな人の部屋に訪問したりする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々に応じ、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にならない思いを受け止める感性を持つべく、それを磨く努力をしている。また、施設内研修においてバリデーション実技をしている。	担当の職員を中心に利用者の表情などから様々な思いを受け止め、職員の勉強会で情報の共有を図っている。センター方式のシートには、利用者そっくりの似顔絵と共に様々な情報が記入されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ケアプランの様式をセンター方式に変えて、取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきメモの中に記して、共有し、ケアに活かしていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と計画について話し合うことが多く、協力を頂いている。	勉強会の中でケアの方向性を話し合い、その内容をもとに、介護計画を作成している。外に出たい利用者を止めるのではなく、「待っているよ」との声掛けと共に送り出すなど職員の共通認識のもとケアが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、内容、必要に応じて様式を工夫し、観察をして統計をとり、必要があれば家族や他の機関へ情報を提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能とは言えないが、本人や家族の必要に応じできる限りの対応を心がけている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、地域内のイベントを把握して、本人が楽しめるものに参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度、病院へ通院し(介助し)、健康のチェックをしている。	かかりつけ医の受診が基本であり、原則は家族が付き添うことになっている。職員の付き添いも行われており、薬の変更や体調に変わりのある時は家族に連絡している。精神科の病院については家族の了承のもと、盛岡の病院に受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を	訪問看護師と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との話し合いや協力により、ケアマネやPTと協力し早期回復に貢献できた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設以来、ターミナルケアに取り組んできた。職員は自分たちの行いに誇りを持つように理事会・運営推進会議などで共有している。(理解者が増えている)	現在まで13名の方の看取りが行われている。当初の「看取りを支援する」という立ち位置から「家族が看取ることのお手伝いをする」というように関わり方が変化してきている。その方が家族が納得、満足するという気づきがあったためである。職員間のサポート体制を整えながら自然に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応の訓練は定期的に行い、必要と思われることには、消防署から研修をお願いして訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は全員が揃って行い、反省会も行っている。また、職員の家族にも協力体制を築き協力を願っている。	災害時は、職員の家族にも駆け付けてもらうように協力依頼を行った。避難訓練は火災、地震を想定して職員全員参加で年に6回程度行っている。当日勤務の職員の動きを他の職員が観察して気づきを話し合うなど工夫している。スプリンクラーの設置を行った。	地域の方に協力は依頼したが、避難訓練への参加は遠慮で声掛け出来てはいない。事業所周辺に人家が少なく消防署も遠いため、災害時には地域の方の協力が不可欠と考えている。今後運営推進会議のメンバーに協力を頂きながら避難訓練を行いたいと考えており、実践等に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し合いをし、研修もしている。損ねた時は注意するよう心掛けている。また、職員も体験し、利用者の気持ちを感じるようにしている。	利用者がこだわることに職員もこだわろうとしている。どうしてそうなのかを理解した上で、「そういう風にしておきたいんだねえ」と利用者の価値観に寄り添うケアを心がけている。	職員の資質向上は今後も大切と考えている。職員の実際に体験する中からの気づきを大切にしながら、利用者へ寄り添うための感覚を研ぎ澄まし、全職員が同じ目線で関わっていくことを課題としている。今後に更に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランに盛り込んで、職員全員が周知に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の始めに、バイタルチェックをし、その時間を利用して希望についての話す時間を持つようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが出るように家族にも協力を求めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り参加してもらい、役割を持ち、そのことで生きる喜びを感じてもらおう。	職員1名を調理担当として配置しており、食事が楽しみなものになるように献立を工夫している。好き嫌いに合わせた代替食を準備したり、刻み食などの工夫を行っている。利用者にはお茶を配ってもらったり、テーブル拭きや皮むきなどできることを役割として行ってもらおうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が理解し、同じ支援ができるように図を描いたり、観察表を作って支援に落ち度がないように気を付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ずつケアの仕方が違っているが、必要に応じて変化させる。口腔ケアの研修にも参加して、新しい技術を取り入れている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで出来るように、トイレの改装を行った、それによりポータブルからトイレの利用をする人が増えた。	1日、1週間、1ヶ月単位で排泄パターンを把握し、利用者の特徴に合わせた声掛けを行っている。この誘導により、オムツの方が日中はハビリパンツに変更できたりという成果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれにあった予防策を講じ、なるべく薬に頼らないようにしている。排便観察表のチェックもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日を増やし、利用者の選択の幅を広げた。	服の脱着が面倒だったり入浴を面倒と思う利用者に対して声掛けや誘導の方法を工夫している。お風呂の日だよと言っても入らないという利用者を別な用事でお風呂場に誘い、「暖かそうだね、入ってみるかい」との声掛けで入浴に結びつけたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間やパターンは本人が自由に決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を把握する担当者があるが、用法については全員が理解し症状と薬の関係性については表にまとめ、医師や、薬剤師に連絡している。また、薬についての勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の話の中から、楽しみや暮らしぶりの様子を聞きだし、今の生活に活かす努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を家族に伝え協力をしてもらっている。家族ができないことは了解をもらいながらそれを支援している。	地域の運動会や盆踊り、ドライブなどに利用者の希望を聞きながら出かけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループ・ホーム 杜の家 自遊舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持の能力がある方は、本人が管理している。本人の考えで使うことが出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけるように依頼があったときは応じていて、家族・本人の希望を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の気付きを大切に、その都度必要と思われることを話し合い、実行している。今年度は二重窓で寒さ対策とロールカーテンで西日対策工事を行った。	天井が高く広々とした空間のもと、薪ストーブが静かに燃えて優しいぬくもりを感じさせている。寒さに備えて窓は2重サッシになっている。広い土間が冬場の活動場所として準備されており、洗濯物干しや餅つきを始めとした様々な作業場として活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を三か所おき、思い思いにくつろいでいるようである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所当初に家族に理解してもらい、持ち込むように協力してもらっている。慣れるにしたがって気持ちが薄れがちになるが、いつもこれでいいだろうか、という見直しを行う努力をしている。また、担当を変えて、新鮮な目で見直す努力をしている。	姉妹で入居されている方は続きの部屋を使用しており、そこで2人で食事が出来るように配慮されている。本人の好みに合わせた部屋作りが支援されており、筆筒や家族の写真、お気に入りの品が多く見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何が必要か、不必要か話し合うことを大切に、個別の工夫をしていくように心掛けている。		